

1. 木質バイオマス関連情報

■バイオマス熱利用ユーザー協会・準備会（東京）、8 月 25 日にホームページを開設。日本国内においては、電力に比べてバイオマスエネルギーの「熱」の活用に関する認知度や導入率はまだ十分とは言えず、導入時のノウハウ不足、情報の分散、運用面での課題など、実際の利用者にとってはさまざまな障壁が存在する。そこで実際にバイオマス熱を利用しているユーザー同士が知見を共有し合い、より現場に即した情報を広めていく場として同協会が立ち上げられることとなった。協会は、①現場の「困った」に対応する相談窓口、②バイオマス熱利用に関する技術・事例の紹介、③専門家や実践者による支援体制の整備、を柱として、地域と産業がともに持続可能である社会の実現を目指していくとしている。協会代表には辻製油（株）代表取締役会長の辻保彦氏が就任。同社東京事務所内に事務所を置く。11 月 12 日（水）には、東京都内またはオンラインによるハイブリッド形式で設立シンポジウムが開催される予定。詳細は下記サイトを参照【バイオマス熱利用ユーザー協会・準備会：2025/08/25】

<https://bbua.or.jp/>

■いわき大王製紙（株）（福島）、2022 年 9 月の爆発事故で全損したバイオマスボイラを再建。7 月から稼働再開。同社は 2001 年、業界に先駆けバイオマスボイラ（3 号機）を導入。2008 年には 2 機目となる 4 号機の稼働を開始したが、2022 年 9 月 6 日、通常運転中に爆発。その後の調査で水蒸気爆発によるものと推定され、以降、重油を燃料としたボイラを併用してきた。ボイラは約 190 億円かけ再建。燃料は木質チップや RPF、廃タイヤなど非化石由来の廃棄物燃料を使用し、発電出力は 33,333kW。水管の漏洩対策など再発防止策も施した。今回の再稼働により非化石燃料のボイラ計 3 基での自家発電率が 100%を超えることから、余剰電力をグループ会社のエリエールプロダクト福島工場（福島）へ送電することで、約 29,000kℓ/年の化石エネルギーを削減するとしている【河北新報：2025/09/18、経産省資料：2023/06/05、大王製紙（株）：2025/07/01】

<https://kahoku.news/articles/20250917khn000063.html>

https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/hoan_shohi/denryoku_anzen/denki_setsubi/pdf/018_03_03.pdf

■東日本旅客鉄道（株）（東京、以下「JR 東日本」）、山手線の高輪ゲートウェイ駅周辺の再開発地区「TAKANAWA GATEWAY CITY」に整備したバイオガス施設を報道陣に公開（9 月 24 日）。同地区は約 10ha におよぶ国内最大規模のエキマチーの街。JR 東日本グループが取り組む環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」の先導プロジェクトとして、街が提供する様々なサービスで使用するエネルギー全体で CO₂排出量「実質ゼロ」を目指し、水素利活用や廃棄物を「資源」として利活用するサーキュラーエコノミーに取り組んでいる。今回公開されたバイオガス施設もその一環。東日本エリア初のビルイン型バイオガス施設は、街のビル THE LINKPILLAR 1 の地下に整備。地区内の飲食店や食事を提供する大型会議場から出る食品廃棄物を最大約 4 t / 日利用し、約 760 m³のバイオガスを生成することが可能。ホテルの給湯に活用し、約 10%の熱を賄うとともに約 144 t / 年の CO₂削減（一般家庭 58 世帯のエネルギー消費量分）を目指す。同地区は 2026 年 3 月 28 日にグランドオープンする予定【読売新聞：2025/09/25、JR 東日本：2025/07/15、2024/07/30】

<https://www.yomiuri.co.jp/economy/20250924-OYT1T50255/>

https://www.jreast.co.jp/press/2025/20250715_ho03.pdf

https://www.jreast.co.jp/press/2024/20240730_ho01.pdf

■欧州委員会が森林破壊防止規則（EUDR）の適用開始を、2025 年末からさらに延期する検討に着手したことが明らかに。EUDR は EU 市場に投入される一連の主要商品が、EU および世界の他の地域での森林破壊や森林劣化に寄与しないようにすることを目的としている。2023 年 6 月の発効後、2024 年 12 月に適用開始予定だったが利害関係者からの圧力により、2024 年 10 月、欧州委員会が一年延期を提案。EU は 2024 年 12 月、12 か月の追加段階的導入期間を認め、大・中規模の企業については

2025 年 12 月 30 日から、零細・小規模企業については 2026 年 6 月 30 日から法律が適用されることになった。欧州委員会は関係者と協力して EUDR 施行に使用する IT システムの準備を進めてきたが、2025 年 10 月 21 日、その負荷レベルが予想をはるかに上回るとして IT システムが完全に運用可能であることを確認したいということ、世界の低リスク国の零細・小規模事業者の「デューデリジェンス（適正評価）宣言書」提出を定期的から一度限りにする「簡素化」を提案。さらに円滑な移行を確実にし、企業が IT 体制を強化するための「移行期間」として、零細・小規模企業の適用開始は 2026 年 12 月 30 日から、大・中規模の企業は 2025 年 12 月 30 日開始のままだが規則の段階的な導入を確実にするため、確認と執行のための 6 か月の猶予期間を設けることを提案。欧州議会および理事会は今後この提案について協議していく予定。欧州委員会は両者に対し、2025 年末までに実施期間を延長する提案を速やかに採択するよう求めていくとしている【ESG グローバルフォーキャスト：2025/09/25、European Commission：2025/10/21、European Parliament：2024/11/14】

<https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/forecast/atcl/news/092500064/>

https://ec.europa.eu/commission/presscorner/detail/en/ip_25_2464

<https://www.europarl.europa.eu/news/en/press-room/20241111IPR25340/eu-deforestation-law-parliament-wants-to-give-companies-one-more-year-to-comply>

■イーレックス（株）（東京）、ビナコミンパワーホールディングス（ベトナム）と共同で石炭火力へのバイオマス混焼試験を開始。2022 年 9 月にビナコミンパワーとの間で調印した石炭火力へのバイオマス混焼等に関する覚書およびその覚書の付録書（2025 年 6 月 17 日締結）に基づき実施するもの。ビナコミンパワーが所有する Na Duong 発電所（55MW×2 基）のうちの 1 基を対象にバイオマスを最大 20%まで混焼するもので、9 月 18 日に投入を開始。経産省資源エネルギー庁の令和 7 年度「資源国脱炭素化・エネルギー転換技術等支援事業費補助金」に採択されており、補助金を活用して混焼試験を行っている。イーレックスは、同国内の Cao Ngan 発電所（57MW×2 基）での混焼試験についても、今秋に実施する計画【イーレックス（株）：2025/09/26】

<https://www.erec.co.jp/news/information/3003/>

■シン・エナジー（株）（兵庫）、三重県度会町および多気町、（株）オリエンタルコンサルタンツ（東京）、朝日ガスエナジー（株）（三重）との共同出資により、「三重広域エネルギー（株）」（三重県度会郡度会町）を設立。出資比率は全社・町 20%ずつ。度会町と多気町、および周辺 4 町（明和町、大台町、大紀町、紀北町）は 2020 年に「三重広域連携スーパーシティ構想推進協議会」を設立。脱炭素の分野では 2021 年 4 月に 6 町共同で「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、2024 年 9 月には三重県で初めて「脱炭素先行地域」に選定され、度会町と多気町を中心に太陽光発電やバイオマス発電など再生可能エネルギーの導入等を実施してきた。三重広域エネルギーは、地域内で発電される再生可能エネルギーを地域内で消費する地産地消を実現するとしてまず 2026 年 4 月から度会町と多気町の公共施設への電力供給開始を目指す。将来的には電力の供給範囲を周辺 4 町へ拡大し、6 町全体の脱炭素化を推進する中核的な役割を担っていくとともに、地域経済の活性化や地域の防災力向上にも寄与していく【シン・エナジー（株）：2025/09/26】

https://symenergy.co.jp/app/uploads/2025/09/250926_%E4%B8%89%E9%87%8D%E5%BA%83%E5%9F%9F%E3%82%A8%E3%83%8D%E3%83%AB%E3%82%AE%E3%83%BC%E6%A0%AA%E5%BC%8F%E4%BC%9A%E7%A4%BE%E3%82%92%E8%A8%AD%E7%AB%8B_SymEnergy.pdf

■静岡県西伊豆町の観光・産業関連 5 団体が 9 月 30 日、議会にバイオマス発電の必要性訴え要請書。同事業は地域内の低質材を活用しバイオマス発電事業を行うとして西伊豆町と民間企業で事業会社を設立し、進めていたもの。今年 7 月、議会で施設整備工事請負契約締結案が否決され、国の補助を受けられなくなることから町長が「事業を断念せざるを得ない」と中止を決定していた。これに対し地元のいなづま林業、伊豆漁協仁科支所、町商工会、町観光協会、堂ヶ島温泉旅館組合の代表者らが事業の必要性を訴えに町役場を訪れ、同町議会に意見交換の場を求める要請書を提出【静岡新聞 DIGITAL：2025/10/01、西伊豆町：2024/07/31、静岡新聞：2025/07/16】

<https://news.at-s.com/article/1816699>

<https://www.town.nishiizu.shizuoka.jp/forms/44/110.html>

<https://news.at-s.com/article/1762668>

■薪ストーブ等製造の（株）モキ製作所（長野）の茂木会長が、長野県千曲市に 1 千万円寄付。市が 9 月 30 日、感謝状を贈呈。

300 万円を薪ストーブなどの購入補助金に、700 万円を子供の教育関連事業の財源に充てる予定【信濃毎日新聞：2025/10/01】
<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2025100100169>

■愛媛県松山市の温泉施設、薪ボイラでコスト削減&中四国ランキング 1 位に。「南道後温泉でいれぎの湯」の源泉は地下 1,200m から自噴し、鉄分を多く含む黄金色の湯。「金泉（きんせん）」とも呼ばれている。36℃の源泉の温度管理に使用しているのが、屋外に設置された 6 台の薪ボイラ。以前は重油式だったが 2022 年に約 1 億円を投じ、薪ボイラに更新。これにより 2 万 ℓ/年消費していた重油の使用量はゼロに。2,000 万円/年以上のコストカットにもつながった。燃料となる薪は松山市内の解体業者からは建築廃材を、林業の盛んな久万高原町の生産者からはスギやヒノキの間伐材を、また松野町の森林整備会社から薪をそれぞれ取り寄せて使用。年間使用量は約 1,400 t。湯の温度が上がらなかつたり、温泉に含まれる鉄分が配管をふさいだりするので湯量の調整には苦労したが、配管の交換や沸かす量を調整するなど、約 2 年にわたり試行錯誤を繰り返しながら課題をクリア。温泉情報サイトの 2024 年版ランキングで中国・四国エリアの総合 1 位に輝いた【あいてれば：2025/10/05】

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/itv/2197795?display=1>

■日本航空（株）（東京）、以下「JAL」、国産木材由来のバイオエタノールを用いた持続可能な航空燃料（以下「SAF」）の実現に向けて、森空バイオリファイナリー合同会社（東京）に出資したと発表。森空バイオリファイナリーは、日本製紙（株）（東京）、住友商事（株）（東京）、Green Earth Institute（株）（東京、以下「GEI」）の 3 社が「木質バイオマスを原料とするバイオエタノールおよびバイオケミカル製品の製造販売事業」に向けて 2025 年 7 月に設立した合併会社。3 社で「森のチカラを空飛ぶチカラに®」をスローガンとする「森空プロジェクト®」を発足し、JAL も 2025 年 3 月から参画している。日本製紙と GEI は、NEDO の「バイオものづくり革命推進事業／純国産木材バイオリファイナリーによる世界最高クラスの低炭素バイオエタノール生産プロセスの開発」を実施する中でこの森空プロジェクトにより日本製紙岩沼工場（宮城）内に実証プラントを建設することになっており、10 月 3 日に同工場内建設予定地に地鎮祭を実施。実証プラントでは製材端材などの東北地域の持続可能な森林資源を原料に、GEI が開発した低炭素・低コス

トのバイオエタノール生産技術を活用し、SAF 向けのバイオエタノール製造を目指す。2026 年度中に竣工予定。生産能力は 1,000 kℓ/年。量産化に向けた技術開発に利用され、2030 年までに数万 kℓ/年規模のバイオエタノールおよびバイオケミカル製品を生産できる商用プラントの稼働を目指す【日本航空（株）、Green Earth Institute（株）：2025/10/08、NEDO】

<https://press.jal.co.jp/ja/release/202510/009076.html>

https://gei.co.jp/ja/img/newsrelease/news_20251017.pdf

<https://www.nedo.go.jp/content/800028219.pdf>

■石川県小松市の工業団地にある木材チップ工場から 10 月 7 日午後 8 時 40 分頃、出火。約 380 m²を焼き、約 2 時間後に消し止められた。警察などが行った実況見分の結果、工場の中央に置かれていた木材を粉砕する機械の周辺の燃え方が激しかったことが判明。この機械に何らかの異常があったとみて、引き続き原因を調査中【MRO：2025/10/08】

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/mro/2218117?display=1>

■エア・ウォーター（株）（大阪）、長野県松本市で建設していた、地産地消エネルギーを活用した資源循環モデルの実証施設「地球の恵みファーム・松本」を 10 月 10 日より本格稼働開始。同施設は「バイオマスガス化プラント」、「メタン発酵プラント」、「スマート陸上養殖プラント」、「スマート農業ハウス」の 4 つの設備で構成。このうちバイオマスガス化プラントとメタン発酵プラントでエネルギーを製造。電力として施設内で利用するとともに FIT を活用し売電する。バイオマスガス化プラントは竹や剪定枝などの未利用資源をブリケットに加工した燃料を 5～6 t/日使用。ガス化・エンジン方式で発電規模は 150kW。電気および熱、CO₂を他の設備に供給。メタン発酵プラントは自社グループのゴールドバック（株）（東京）のお茶やコーヒー粕を含む食品廃棄物を 30 t/日使用し、発電規模は 300kW。バイオガスを発電とバイオメタン製造に使用し、排熱はメタン発酵プラント、養殖・農業ハウスに供給し温度調整に利用。排気ガス中の CO₂を分離回収し、農業ハウスの農作物の育成、ドライアイス製造に利用するほか、メタン発酵の廃棄物からは肥料を製造。施設全体で地産地消エネルギーを活用した資源循環モデルを実現【エア・ウォーター（株）：2025/10/10】

<https://www.awi.co.jp/ja/business/news/news-2025101001.html>

■東北大学大学院環境科学研究科助教授らと八戸工業高等専門学校校長らによる研究グループが、植物由来で生分解性の、水中の金属イオンを安定化させるキレート剤を用い、木質バイオマス灰の環境負荷低減、資源回収、CO₂削減を同時に達成する新しいプロセスを開発。バイオマス発電の増加に伴い燃焼副産物であるバイオマス灰の排出量も急増しているが、木質バイオマス灰にはカリウムやカルシウムなどの有用元素だけでなく、環境や人体に悪影響を及ぼす重金属も含まれるため、安全かつ効率的な利用が困難だった。研究グループは木質バイオマス灰から、高純度の炭酸水素カリウム（カリ肥料）と炭酸カルシウム（工業材料）を効率的に製造可能であることを実証。キレート樹脂による重金属除去により、抽出に用いたキレート剤水溶液を再生して再利用できる持続可能なプロセスも確立。研究成果は、10月1日付で資源循環分野の国際学術誌 Resources, Conservation & Recycling に掲載【(独) 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校：2025/10/10】

<https://www.hachinohe-ct.ac.jp/info/2025/10/002152.php>

■(株) ホンダトレーディング（東京）の「バイオ炭の農地施用による脱炭素プロジェクト」が、J-クレジット制度の正式認証を取得。同プロジェクトでは、農業法人と連携し、廃棄物となっていたバイオマスを炭化し、農地に施用することで炭素を長期的に土壌に固定。その削減・貯留量を J-クレジットとして創出することで、環境価値を可視化し、経済価値へとつなげる。さらに複数の農業法人を取りまとめる「プログラム型」の枠組みにすることにより、小規模農家でも効率的にカーボンクレジットを創出でき、地域全体での取り組み拡大が可能となっている。これにより、農業分野から信頼性の高いカーボンクレジットを安定的に供給できるようになり、農業従事者は廃棄バイオマス処理コストの削減や新たな収益機会を得られるだけでなく、持続可能な農業の実現にもつながる。創出されたクレジットは、企業のカーボン・オフセットや経団連カーボンニュートラル行動計画など、さまざまな用途で活用が可能【(株) ホンダトレーディング：2025/10/14】

<https://www.hondatrading.com/news/2025/10/cde6cf5c9ddc9e7075cd5730f75a65257ebcdc45.html>

2. ペレット関連情報

■再生可能エネルギー事業の開発などを手がけるサントモ・リソース（株）（東京）のインドネシア子会社 PT Santomo Biomass Indonesia（以下「SBI」）が、東ジャワ州グレシクに建設したペレット製造工場の稼働を開始。9月24日に工場の開所式典を実施し、工場見学ツアーも開催。ペレットの原料は、日系企業を含む州内の製材工場約5社から調達するおがくずを活用。ペレットはインドネシア国内で操業する日系企業の繊維や食品工場、外資系や地場系の製造業に供給するほか、日本や韓国への輸出も視野に入れる。月産能力は1,000 t。同工場は経産省が推進する「アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）」の登録案件。同州で日系企業が保有・運営するペレット工場は初【NNA ASIA：2025/09/30、サントモ・リソース（株）：2025/09/25】

<https://www.nna.jp/news/2844531>

<https://san-tomo.com/posts/31di2xGW>

■(株) レノバ（東京）、佐賀県唐津市にある「唐津バイオマス発電所」が9月27日付で営業運転を開始したと発表。当初2024年12月の稼働を目指していたが、ボイラやタービンの調整に時間がかかっているとして延期を繰り返していた。発電所はレ

ノバ（出資比率35%）、東邦ガス（株）（愛知、同34%）、JA 三井リース（株）（東京、同16%）、(株) イノセント（宮崎、同15%）が共同出資した合同会社唐津バイオマスエナジー（佐賀）がこれまで準備を進めてきた。ペレットとPKSを燃料とし、発電容量49.9MW、想定年間送電量は約3億5,000万kWh（一般家庭約11万世帯の年間使用電力量に相当）。また、発電事業の収益性を向上させる観点から、FIP認定の取得をし、国内需要家への長期価格固定契約に基づく売電を開始。同発電所の営業運転開始により、レノバは全国7か所、合計約445MWの設備容量を有する、国内最大級のバイオマス発電事業者に。輸入燃料を使う大型バイオマス発電所について政府が補助金の対象外としたことなどを受け、レノバは2030年度までは輸入材を使った大型バイオマス発電の新規開発をゼロとする予定【(株) レノバ、日本経済新聞：2025/09/30】

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20250930_01_PRESS.pdf

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC302XT0Q5A930C2000000/>

■香川県坂出市にある「坂出バイオマス発電所」で、10月1日竣工式を開催。発電所運営事業者の坂出バイオマスパワー合同会社（香川）には四国電力（株）（香川）、（株）安藤ハザマ（東京）、プロミネットパワー（株）（東京）、イーレックス（株）（東京）、新光電装（株）（香川）、（株）坂出郵船組（香川）の6社が出資。東南アジアから調達した木質ペレットを約32万t/年使用。発電出力は74,950kW、年間発電量は約5.3億kWhで一般家庭約17万世帯分に相当。発電した電力はFITで四国電力送配電（株）（香川）に売電。営業運転は今年6月2日に開始済み【Yahoo!ニュース:2025/10/01、坂出バイオマスパワー合同会社、日本経済新聞:2025/10/02】

<https://news.yahoo.co.jp/articles/33e3048a3b2c69e3772a0f355a4a3467979348f7>

<https://www.sakaide-biomass.co.jp/#companyprofile>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC015010R01C25A000000/>

■静岡県富士市にある国内最大規模のバイオマス発電所、2026年度に稼働再開へ。ゼロワットパワー（株）（千葉）が、発電事業者の鈴川エネルギーセンター（株）（静岡）に出資していた三菱商事クリーンエネルギー（株）（東京）、日本製紙（株）（東京）、中部電力（株）グループ（愛知）の3社から株式を取得し、9月22日に完全子会社化したと発表。同センターのバイオマス発電所は2022年6月運開。木質ペレットを燃料とし、発電出力は85,400kW、約19万世帯分の電気をつくっていた。燃料輸入元の米エンビバ社の破綻と燃料調達コストの上昇が影響したとみられ、2024年12月3日から稼働を停止。負債総額は約535億円（昨年3月期末）に上る。ゼロワットパワーは今回の株式取得により、鈴川エネルギーセンター発電所の既存インフラを最大限に活用し、発電所の設備・運営方法、環境保全等は従前の体制を踏襲するとしている。稼働停止の要因になった燃料の木質ペレットは、北米から輸入する予定。同センターでの年間発電量は、約6億kWhの見込み【静岡新聞j:2025/10/02、朝日新聞:2025/02/14、ゼロワットパワー（株）:2025/09/22】

<https://news.at-s.com/article/1817663>

<https://www.asahi.com/articles/AST2B2SL5T2BULBH006M.html>

https://zerowattpower.co.jp/assets/uploads/pdf/PressRelease_20250922v1.pdf

■ヴェイン・エナジー（株）（東京）、タイにおけるバイオマス

発電用燃料ペレットの製造・販売事業を本格始動すると発表。中国・香港企業と連携し、タイのチャイヤブーム県にバイオマスペレット製造工場を新設していく。タイ第1工場は今年7月に完成し、9月に森林認証FSC取得と販売を開始。タイ第2工場は2026年3月に、第3工場は2027年9月にそれぞれ工場が完成する予定。3つの工場が本格稼働した際の年間生産能力は合計30万t、年間売上高として51億6,000万円を見込む。生産したペレットは、主に需要が増加している日本や韓国のバイオマス発電所へ販売する計画【環境ビジネス:2025/10/06、ヴェイン・エナジー（株）:2025/08/09】

<https://www.kankyo-business.jp/news/29095839-714d-42cb-b8ad-0dd95109ce21>

<https://vein-energy-all.com/posts/kR7NFrez>

■出光興産（株）（東京）、ベトナム・ザライ省（旧ビンディン省）に建設した世界最大規模のブラックペレット（BP）生産工場が10月8日、商業運転を開始。工場のあるIdemitsu Green Energy Vietnam社は、出光興産100%子会社。ベトナム初のBP生産工場、12万t/年の製造能力を持つ。出光興産はベトナムで2020年から小規模なデモプラントを操業。BP（商品名：出光グリーンエネルギーペレット™、以下「IGEP」）は一般に普及している木質ペレットを半炭化した高カロリー燃料。他のバイオマス燃料と比較して石炭に近い取り扱いが可能であるため、使用に際し石炭用の既存設備の大規模な改造は必要なく、スムーズな燃料転換が可能となっている。これまで日本国内の約20社にIGEPを試験利用してもらい、石炭の代替燃料として利用可能との評価を得てきた。自社の2030年ビジョン「責任ある変革者（エネルギーの安定供給責務を果たしながらカーボンニュートラル社会の実現に貢献する）」の下、300万t/年供給という目標も掲げており、今後も石炭を使用している主に日本国内の顧客の脱炭素を実現するための代替燃料として、IGEPを供給していく【出光興産（株）:2025/10/09】

<https://www.idemitsu.com/jp/news/2025/251009.pdf>

■（株）レノバ（東京）、連結子会社の合同会社御前崎港バイオマスエナジー（静岡）が保有する御前崎港バイオマス発電所について、10月10日に通常操業を再開したと発表。2025年9月中の運転再開に向けて6月より点検及び補修工事を進めていたが、必要部材の納入に時間を要した等の事由により9月22日に10月中に変更したことを公表していた。主な定期点検の

工程を今回の点検・補修工事期間中に実施したため、2026 年 1 月に予定していた定期点検の実施が不要に。これにより、今期における本発電所の収益の減少を極小化としている【(株)レノバ：2025/10/14、2025/09/22】

https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20251014_01_PRESS.pdf
https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20250922_01_PRESS.pdf

3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■金沢大学理工学域「ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー」

2025 年 11 月 1 日（土）

金沢大学角間キャンパス（石川県金沢市）

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/event/170546/>

■林野庁シンポジウム「企業と森林（もり）の共創による win-win な未来へ」

2025 年 11 月 4 日（火）

木材会館 7 階大ホール（東京都江東区）

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kikaku/250919.html>

■紫波グリーンエネルギー（株）R7 年度「木質バイオマス熱電併給システム普及促進研修会（第 1 回・基本編）」

2025 年 11 月 5 日（水）

紫波町近郊（岩手県）またはオンライン

<https://shiwa-green.co.jp/news/r7chpworkshopsiwate.html>

■気候変動イニシアティブ「気候変動アクション日本サミット 2025」

2025 年 11 月 7 日（金）

イイノホール（東京都千代田区）またはオンライン：Zoom ウェビナー

<https://japanclimate.org/news-topics/jcas2025/>

■NPO 法人エコネット近畿「関西脱炭素フォーラム 2025」

2025 年 11 月 7 日（金）

マイドームおおさか 1 階展示ホール A（大阪府）

<https://econetkinki.org/20251107-datsutanso-forum/>

■NPO 法人九州バイオマスフォーラム「薪活イベント」

2025 年 11 月 8 日（土）※予備日 11/15（土）

熊本県阿蘇市内

<https://kbiomass.org/2025/10/20/%e6%96%b0%e3%82%a4%e3%83%99%e3%83%b3%e3%83%88%e3%80%8c%e8%96%aa%e6%b4%bb%e3%82%a4%e3%83%99%e3%83%b3%e3%83%88%e3%80%8d%e3%82%92%e9%96%8b%e5%82%ac%e3%81%97%e3%81%be%e3%81%99%ef%bc%81/>

■上越市農林水産業振興協議会林業部会「地域の林業見学ツアー」

2025 年 11 月 8 日（土）

ゆきぐに森林組合（新潟県上越市）

https://joetsu.yukiguni.town/type_event/302107/

■経済産業省北海道経済産業局「とかち発 農林水産業から拓く『GX 地方創生』シンポジウム」

2025 年 11 月 10 日（月）～11 日（火）

ホテル日航ノースランド帯広ノースランドホール（北海道）

https://www.hkd.meti.go.jp/hokpp/gx_symposium/index.html

■バイオマス熱利用ユーザー協会・準備会設立シンポジウム

2025 年 11 月 12 日（水）

日比谷図書館・日比谷スタジオプラス（小ホール）（東京都千代田区）

<https://bbua.or.jp/new-products-info-20180201/>

■群馬県「森林・林業のイノベーションを推進する「ぐんま森林・林業イノベーションプラットフォーム」キックオフイベント」

2025 年 11 月 14 日（金）

ビエント高崎エクセルホール（群馬県高崎市）

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000059.000032326.html>

■（一社）日本エネルギー学会バイオマス部会「第 13 回アジアバイオマス科学会議（ACBS2025）」

2025 年 11 月 18 日（火）

弘前大学（青森県弘前市）

<https://www.jie.or.jp/publics/index/1046/>

■（一社）日本エネルギー学会バイオマス部会「第 21 回バイオマス科学会議」

2025 年 11 月 19 日(水)～11 月 21 日（金）

※21 日はテクニカルツアー

弘前大学創立 50 周年記念会館（青森県弘前市）

<https://www.jie.or.jp/publics/index/1036/>

■RX Japan（株）SMART ENERGY WEEK 関西 2025

2025 年 11 月 19 日（水）～ 21 日（金）

インテックス大阪（大阪府大阪市）

<https://www.wsew.jp/osaka/ja-jp.html>

■RX Japan（株）第 5 回 脱炭素経営 EXPO 【関西展】

2025 年 11 月 19 日（水）～ 21 日（金）

インテックス大阪（大阪府大阪市）

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp/about/dcm.html>

◎薪ストーブ&ペレットストーブ体験会 2025 開催事務局「薪ストーブ&ペレットストーブ体験会 2025」

2025 年 11 月 22 日（土）～23 日（日）

八戸市まちなか広場 マチニワ（青森県八戸市）

<https://kabutaka.jp/machiniwa2025>

■CMT「DeCarbon Tokyo 2025」

2025 年 12 月 3 日（水）～4 日（木）

ヒルトン東京（東京都新宿区）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=251219&>

■埼玉県環境科学国際センター「気候変動適応サイエンスカフェ『地球温暖化や海洋酸性化が海洋生物や地域社会に及ぼす影響とその対策～日本の海に起きている異変～』

2025 年 12 月 4 日（木）

オンライン（Microsoft Teams）

https://saipat.pref.saitama.lg.jp/post/information/20251001/science_cafe_251204/

◎山形県鶴岡市「鶴岡市木質バイオマス熱利用勉強会・見学会」

2025 年 12 月 17 日（水）

鶴岡市朝日庁舎チップボイラ、羽黒庁舎ペレットボイラ（山形）

<https://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/forestry/nousan0120251007.html>

※対象は市内事業者

■紫波グリーンエネルギー（株）R7 年度「木質バイオマス熱電併給システム普及促進研修会（第 2 回・技術編）」

2025 年 12 月 18 日（木）

紫波町近郊（岩手県）またはオンライン

<https://shiwa-green.co.jp/news/r7chpworkshopsiwate.html>

■WOOD コレクション実行委員会、等「『WOOD コレクション（モクコレ）2026」

【リアル展】2026 年 2 月 12 日（木）～13 日（金）

【オンライン展】2026 年 1 月 19 日(月)～2 月 27 日（金）

東京ビッグサイト西 1・2 ホール（東京都江東区）

<https://www.mokuColle.com/>

■紫波グリーンエネルギー（株）R7 年度「木質バイオマス熱電併給システム普及促進研修会（第 3 回・事業化編）」

2025 年 2 月（予定）

<https://shiwa-green.co.jp/news/r7chpworkshopsiwate.html>

■（一社）日本森林学会「第 137 回日本森林学会大会」

2026 年 3 月 16 日（月）～3 月 19 日（木）

つくば国際会議場と筑波大学（茨城県つくば市）

<https://www.forestry.jp/meeting/>

■RX Japan（株）SMART ENERGY WEEK 春 2026

2026 年 3 月 17 日（火）～ 19 日（木）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.wsew.jp/spring/ja-jp.html>

■日報ビジネス（株）「2026NEW 環境展／地球温暖化防止展」

2026 年 5 月 20 日（水）～22 日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.n-expo.jp/>

◎ペレットクラブ「Bioenergy 2026」

2026 年 5 月 20 日（水）～22 日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）NEW 環境展内

4. イベント情報（海外）

■Ecomondo 2025

2025 年 11 月 4 日（火）～7 日（金）

リミニ（イタリア）

https://cloud.ecomondo.com/visit-2025-eng?utm_source=banner&utm_medium=referral&utm_campaign=bioenergy_insight

■European Bioenergy Future 2025

2025 年 11 月 5 日（水）～6 日（木）

ブリュッセル（ベルギー）

<https://bioenergyeurope.org/events/>

■USIPA 2025 Conference

2025 年 11 月 9 日（日）～11 日（火）

フロリダ州マイアミ（USA）

<https://theusipa.org/2025-conference>

■UNFCCC COP30

2025 年 11 月 10 日（月）～21 日（金）

ベレン（ブラジル）

<https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/un-climate-change-conference-belem-november-2025/the-road-to-belem>

◎9th Biomass & Bio Energy Asia

2025 年 11 月 18 日（火）～20 日（木）

ホーチミン市（ベトナム）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=251114&>

■Stora biokraft- och v ärmekonferensen

2025 年 11 月 19 日（水）～20 日（木）

ベクショー（スウェーデン）

<https://www.svebio.se/en/evenemang/stora-biokraft-och-varmekonferensen/>

■Nordic Flame Days 2025

2025 年 11 月 26 日（水）～27 日（木）

コペンハーゲン（デンマーク）

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-flame-days-2025/>

■Industry CCUS 2025 Conference

2025 年 11 月 26 日（水）～27 日（木）

アムステルダム（オランダ）

<https://fortesmedia.com/industry-ccus-2025,4,en,2,1,112.html>

■Nordic Flame Days 2025

2025 年 11 月 26 日（水）～27 日（木）

コペンハーゲン（デンマーク）

<https://www.conferencemanager.dk/nfd2025/conference>

■European Biocarbon Summit 2025

2025 年 12 月 9 日（火）～10 日（水）

アムステルダム（オランダ）

<https://www.hawkinswright.com/european-biocarbon-summit/home>

■10th Biogas Congress

2025 年 12 月 16 日（火）～17 日（水）

ワルシャワ（ポーランド）

<https://magazynbiomasa.pl/biogas-congress/>

■8th Central European Biomass Conference

2026 年 1 月 21 日（水）～23 日（金）

グラーツ（オーストリア）

https://www.cebc.at/8_mitteuropaeische_biomassekonferenz_cebc_2026?_lang=englisch

■Argus Biomass Asia Conference

2026 年 2 月 2 日（月）～4 日（水）

シンガポール（シンガポール）

<https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/biomass-asia-conference>

◎Nordic Pellets Conference 2026

2026 年 2 月 3 日（火）～4 日（水）

ヨーテボリ（スウェーデン）

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets->

[conference-2026/](#)

■bio 360

2026 年 2 月 11 日（水）～12 日（木）

ナント（フランス）

<https://www.bio360expo.com/Page/1259/program-2026>

■World Sustainable Energy Days

2026 年 2 月 24 日（火）～27 日（金）

ヴェルス（オーストリア）

<https://www.wsed.at/>

◎European Pellet Conference 2026

2026 年 2 月 25 日（水）

ヴェルス（オーストリア）

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference-2026>

■HOLZ-HANDWERK 2026

2026 年 3 月 24 日（火）～27 日（金）

ニュルンベルク（ドイツ）

<https://www.holz-handwerk.de/en>

■2026 International Biomass Conference & Expo

2026 年 3 月 31 日（火）～4 月 2 日（木）

テネシー州ナッシュビル（USA）

<https://2025->

ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home

■Sustainable Aviation Fuels Summit

2026 年 4 月 14 日（火）～15 日（水）

ブリュッセル（ベルギー）

<https://biofuels->

news.com/conference/sustainableaviationfuels/?_gl=1%2A136ynwf%2A_gcl_au%2AODE5MjY4OTlwLjE3NTkyMTI2MDI

■Svebios årsstämma och vårmöteskonferens 2026

2026 年 4 月 16 日（木）

ストックホルム（スウェーデン）

<https://www.svebio.se/en/evenemang/svebios-arsstamma-och-varmoteskonferens-2026/>

■Argus Biomass Conference

2026 年 4 月 21 日（火）～23 日（木）

ロンドン（UK）

<https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/biomass-conference>

■BIOGAS AMERICA

2026 年 5 月 18 日（月）～21 日（木）

ミシガン州デトロイト（USA）

<https://biogasamericas.com/>

■Sustainable Fuels Summit: SAF, Renewable Diesel and Biodiesel

2026 年 6 月 2 日（火）～4 日（木）

ミズーリ州セントルイス（USA）

https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Sustainable_Fuels_Summit_SAF_Renewable_Diesel_Biodiesel

■International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2026 年 6 月 2 日（火）～4 日（木）

ミズーリ州セントルイス（USA）

<https://2026->

few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home

■Carbon Capture & Storage Summit

2026 年 6 月 2 日（火）～4 日（木）

ミズーリ州セントルイス（USA）

https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon_Capture_Storage_Summit

■Bio 360 Africa

2026 年 6 月 17 日（水）～18 日（木）

ヨハネスブルグ（南アフリカ共和国）

<https://www.bio360-africa.com/lang/en>

■Carbon Capture & Storage Summit 2026

2026 年 6 月 24 日（水）～26 日（金）

ミズーリ州セントルイス（USA）

https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon_Capture_Storage_Summit

5. 2025 年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報（都道府県順）

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇：ストーブ

◆：ストーブ・ボイラ共

【北海道】

◇浦幌町「浦幌町木質ペレットストーブ導入支援事業補助金」

<https://www.urahoro.jp/business/?content=610>

【岐阜県】

◆高山市「高山市木質バイオマス活用促進事業補助金」

<https://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000024/1000130/1001311/1001315.html>

6. 公募等情報（締切順）

■NEDO「2025 年度「脱炭素化・エネルギー転換に資する我が国技術の国際実証事業」に係る第 2 回公募について」

提出受付期間 ～2025 年 11 月 4 日（火）

https://www.nedo.go.jp/koubo/GI2_100001_00009.html

■COSMO エコ基金「COSMO エコ基金新規プロジェクト公募のご案内」

応募締切 2025 年 11 月 9 日（日）

<https://www.cosmo-energy.co.jp/ja/actions/phil/kankyo/info.html>

※助成期間：2026 年 4 月～2027 年 3 月

■（独）環境再生保全機構「2026 年度地球環境基金助成金募集のご案内」

募集期間 2025 年 10 月 14 日（火）～11 月 17 日（月）

<https://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/application/index.html>

■エフピコ環境基金事務局「エフピコ環境基金 2026 年度の募集」

募集期間 2025 年 10 月 1 日（水）～12 月 15 日（月）

https://www.fpc.jp/esg/environmenteffort/environmentalfund/environmentalfund_recruitment.html

■広島県「令和 7 年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金の公募のお知らせ（幼稚園・保育所・認定こども園等対象）」

受付期間 2025 年 4 月 7 日（月）～12 月 19 日（金）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojokin.html>

■広島県呉市「呉市脱炭素化設備等導入補助金（設備導入補助）」

申請受付期間 2025 年 5 月 27 日（火）～12 月 25 日（木）

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/40/cn-shien004.html>

■兵庫県高砂市「高砂市中小事業者脱炭素化設備等導入促進補助金」

受付期間 2025 年 5 月 1 日（月）～12 月 26 日（金）

<https://www.city.takasago.lg.jp/soshikikarasagasu/kankyoseisakuka/4/hojyokinn/10321.html>

■（一社）環境共創イニシアチブ「令和 6 年度補正予算 省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業（3 次公募）」

公募期間 複数年度事業：2025 年 8 月 13 日（水）～ 2026 年 1 月 13 日（火）

<https://sii.or.jp/koujou06r/overview3.html>

■（一社）低炭素投資促進機構「令和 7 年度温暖化対策促進事業費補助金（トランジション・ファイナンス推進事業）」

公募期間 2025 年 6 月 13 日（金）～2026 年 1 月 30 日（金）

<https://www.teitanso.or.jp/tf7/>

■富山県南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/soshiki/ecovillage/2/1/761.html>

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等
設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共の施設等再生可能エネルギー導入

事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進
枠）」

[https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/s
houkougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html](https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/s
houkougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html)

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠
融資制度」

[https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kank
you/kj00006264.html](https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kank
you/kj00006264.html)